

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化政策課

施設の名称 静岡音楽館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団			
1 履行状況				
(1) 目標達成				
ア 施設利用率				
目標値	84% (ホール、講堂、リハーサル室の平均)			
実績値	78.3% (前年度77.8%)			
達成率	93.2% (前年度比100.6%)			
【参考】令和元年度(コロナ前) 実績値78.9%、達成率93.9%				
イ 公演等事業の定員(有効座席数)に対する入場者数の割合				
目標値	70%			
実績値	63.1% (前年度70.1%)			
達成率	90.1% (前年度比90.0%)			
【参考】令和元年度(コロナ前) 実績値67.7%、達成率96.7%				
ウ 地元音楽家の人材活用に関する事業				
目標値	年間10回以上			
実績値	22回 (前年度18回)			
達成率	220% (前年度比122.2%)			
【参考】令和元年度(コロナ前) 実績値7回、達成率70%				
(2) 施設利用状況				
ア 稼働率				
来館者数	81,646人 (主催事業15,516人、貸館66,130人)			
(前年度)	83,122人 (主催事業15,986人、貸館67,136人)			
(3) 人員配置状況				
館長1人(正規職員1人)、係長3人(正規職員3人(内2人は学芸員))、 係員7人(正規職員5人(内2人は学芸員)、契約社員1人、臨時職員1人)				
(4) 業務実施状況				
静岡音楽館条例第2条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。				
主な事業と入場者数等実績は、以下のとおり。				
事業内容	令和6年度		令和5年度	
	入場者数	目標値	入場者数	目標値
公演等事業	6,971人	7,959人	7,503人	7,800人

普及振興事業	4,062人	—	3,191人	—
支援育成事業	1,367人	—	2,277人	—
連携事業（3館含む）	6,595人	—	5,686人	—

#### ① 公演等事業

公演等事業（17回）の合計入場者数は6,971人となり、前年度の7,503人（18回）から減少したものの、公演等事業の核として展開している「コンサートシリーズ」は、中世アイルランドのコーラス、琉球古典音楽、オルガン500円コンサート等、特定のジャンルに偏らない多彩な公演を実施し、うち4事業が完売した。

#### ② 普及振興事業

中山間地等の遠方の居住者や特別支援学校、更生施設等の子どもたちにも演奏を提供するアウトリーチ・コンサートを実施し、静岡音楽館へ足を運ぶことが難しい層にも音楽文化に親しんでもらえる機会とした。一方、静岡音楽館のホールならではの本格的な音響特性を広く周知するため、静岡音楽館へ気軽に来館してもらうことを目的とした「AOIのオープン・デイ」も実施した。ピアノ解体ショーなど新しいコンテンツもとりいれて前年度比140.2%の入場者を得ることができた。来館が初めてだったという声もあり、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋がっていると評価できる。

また、「0歳児からのファミリー・コンサート」や「子どものための音楽ひろば」といった次世代を担う子どもたちの感性を磨く事業も継続して実施している。今後も「市民が音楽を身近に体験することができる機会の提供」を行うとともに、静岡音楽館の認知度向上にもつながる事業として積極的に取り組んでほしい。

#### ③ 支援育成事業

例年実施している「静岡の名手たち」オーディションは、インターネットでも応募できるようにしたところ、多数のWEB申込があり、コロナ禍で低迷した応募数を回復することができた。鍵盤楽器部門23組、邦楽部門3組、管楽器部門33組、アンサンブル部門4組）の応募があった。審査の結果、鍵盤楽器部門3名、邦楽部門1組（2名）、管楽器部門3名が合格し、9月には合格者によるコンサートを行った。

また、市民の発表機会を提供する「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、23団体総勢131人の出演、観客数は323人（令和5年度：533人）となり、入場者数は減少した。

その背景には、大道芸ワールドカップや台風の影響による大雨などが要因として挙げられる。また、今年で14回目となった本事業は、地元静岡の音楽家を発掘・育成する取組みを積極的継続的に行うことができていることは評価できる。

#### ④ 他施設との連携事業

今年度初の試みとして実施した避難訓練コンサートにおいては、静岡市消防局と連携し、音楽館職員だけでなく、アテンダント、ボランティア、舞台スタッフなど多くの人員が運営に関わった。訓練に関しては、担当ごとのタイムスケジュールを個別に作り、それぞれの役割を明確に実施したことにより、葵消防署副署長から適切に行われたと、評価をいただいた。引き続き利用者の安全性の確保に努めてほしい。

また、地元在住の新たな音楽家を発掘するプロジェクトである「静岡の名手たち」は、今年度で27回目を迎え演奏の機会を継続的に提供している。

## ⑤ 維持管理業務

建築基準法において定める建築設備、昇降機及び防火設備の点検を適切に行ったほか、舞台照明設備保守点検業務や音響設備保守点検業務等、ホールの設備が正常に作動するための保守点検を第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行った。

また、空調機や照明器具等の修繕に加え、グランドピアノの塗装・調律、電子ピアノやチェンバロなどの楽器の補修を年間合計33件の修繕を実施した。

### (5) 広報の充実

Facebook、Instagram、X (Twitter) といったSNS媒体を活用した広報の充実を図ることで、令和6年度は前年度比で投稿回数81.6%に留まったが、継続的な広報活動が実を結び、上記の広報媒体において、平均して年間180人を超えるフォロワー数が増加した。

### 【検証・分析等】

令和6年度は前年度に比べて、来館者数、施設利用率ともに減少となり、指定管理者業務仕様書で定めた施設利用率84.0%は達成できなかった。令和6年度に来館者数は81,646人で、コロナ禍以前の平成28年度から平成30年度までの年間平均来館者数は134,079人だったことから、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の期間を経て、施設利用者の活動が縮小化または活動団体が解散したことで、利用者が減少したことが考えられる。

有効座席に対するコンサート入場者数の割合も、来館者数や施設利用率と同様に減少しており、理者業務仕様書で定めた目標の70%を達成できなかった。要因としては、公演等事業の会場を静岡市民文化会館で実施（有効座席数：1,536席）したことにより、入場率が激減してしまった。

公演等事業については、指定管理者が有する人脈やノウハウを活用した多彩で上質な公演を実施した。普及振興事業については、広報の充実も積極的に行い、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋げる取り組みを行った。

支援育成事業については、今年で14回目となる「アマチュア・アンサンブルの日♪」など、地元静岡の音楽家を発掘・育成する取組みを積極的・継続的に行うことができていることは評価できる。人材育成に関する事業を多数実施し、プロからアマチュアまで幅広い人材の育成支援に取り組んでいるだけでなく、駅前3館連携事業や小中学校等他施設とも積極的に連携し、音楽館の外へ音楽文化を届けることができた。

維持管理業務については、利用者の声を踏まえた修繕も実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう、音楽ホールとしての質の高さの維持に努めていることが評価できる。

### 【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

**【具体的な意見・要望の内容と対応状況】**

意見等：トイレの数が少ない。

対応：ホール2階（9階）は、1階席と席数はほぼ同数なのに関わらず、トイレの個室数が半分であるため、どうしても混雑してしまう。

8階では7階のトイレ案内を、9階では8階のトイレをご案内しているが、施設の構造上の問題が大きく、抜本的な解決は難しい。

ただ、9階トイレ個室をすべて洋式化したことにより、改修以前よりは混雑が多少緩和された。

**【検証・分析等】**

指定管理者による対応が困難な領域においても、課題を把握したうえで、運営面や施設の修繕に取り組むことで改善を図っており、良好な対応がなされているといえる。

**【確認結果】**

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

**3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価**

**(1) 利用者満足度調査**

各コンサートの入場者へアンケートを実施した。

**【調査結果】**

回答者総数：3,029件、満足度 96.9%

**【検証・分析等】**

23回の満足度調査を行ったところ、「非常に良い」又は「良い」と回答した人の割合は平均96.9%という高い評価を得ることができた。満足度が100%となった公演もあり、利用者が満足するような質の高いコンサートが行われていると評価できる。

**【確認結果】**

○：調査の結果が概ね良好である。

**(2) 市民アンケート**

**【検証・分析等】**

静岡音楽館の認知度は64.0%、前年度（72.0%）と比較し減少した。引き続き事業内容の広報だけでなく市民が気軽に来場できるイベントを企画し、施設の魅力をアピールする取組を行いながら、認知度を高めていくことを期待する。

**【確認結果】**

○：調査の結果が概ね良好である。

**(3) その他の調査**

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査した。

**【調査結果】（回答者総数2,914人）**

各項目の「満足」「やや満足」の回答率は下記のとおり。

① 職員の応対 78.9%（前年度78.5%）

- ② 清掃、整理整頓 81.1% (前年度80.9%)
- ③ 案内表示、掲示板 75.8% (前年度74.9%)
- ④ 開館日・開館時間 73.7% (前年度 74.1%)
- ⑤ 空調・音響・照明等 76.0% (前年度 75.7%)

**【検証・分析等】**

前年度と比較すると、「満足」「やや満足」と回答した人の割合が微増している項目が多い。引き続き、利用者への応対を中心に、より意識を高め取り組んでもらうよう期待する。

**【確認結果】**

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理（収支）状況の評価

**【収支状況】**

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

**【検証・分析等】**

指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおり執行されており良好である。指定管理業務の事業内容をより充実させるため、国等の補助制度を積極的に活用している。

**【確認結果】**

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

**【検証・分析等】**

管理運営全般に関しては、事業計画に従い概ね良好に実施されている。

施設管理については、静岡中央郵便局との合築建物であることから、日常的に情報交換を行いながら良好な関係を保ちつつ、必要な保守点検を行っている。

貸館事業においては、コロナ禍を経たことによる影響が続いているものの、利用状況は回復傾向にあるため、引き続き、施設利用拡大に向けた広報に努めていってほしい。

なお、昨年度は広報及び施設利用料の請求に関して、事務ミスが2件発生した。既に原因分析と再発防止策を講じていることから、反省を生かし適切に事務処理を行うよう努めていただきたい。

主催事業は概ね事業計画のとおり実施され、公演等事業ではホールの音響特性を活かした上質な音楽を提供する「コンサートシリーズ」だけでなく、「オルガン¥500コンサート」の回数を増やすなど市民が気軽に音楽を楽しむことができる機会も継続して設けている。普及振興事業や支援育成事業においては、コロナ禍で取りやめていた事業についても再開しており、今後も市民の鑑賞機会拡大や地域の音楽家の支援・育成のため更なる事業内容の充実を期待する。また、3館連携事業では、各館の特徴を活かした事業を連携して実施することにより内容が濃いものとなるほか、来館者が相互に

行き交うことで静岡駅周辺の回遊性を生み、中心市街地の賑わい創出に貢献しているといえる。

引き続き、事業内容の充実や広報手段の工夫に努めていくとともに、静岡音楽館の使命である「広く市民に音楽に触れる機会を継続的に提供」していくことを今後も期待する。

**【評価結果】**

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。